

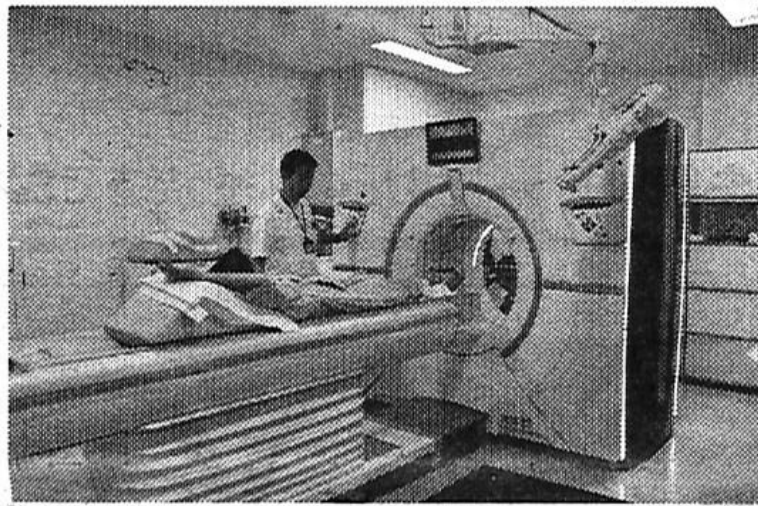
最新CT、MRI導入

戸田中央「患者の負担少なく」 総合病院

戸田市本町の戸田中央総合病院(戸田中央医科グループ、中村隆俊会長)で最新鋭のコンピュータ断層撮影装置(CT)と磁気共鳴画像装置(MRI)が導入された。従来機よりも精密な画像が撮影でき、時間も短縮。担当者は「順番待ちの日数も改善した。よりたくさんの人に利用してもらいたい」と話している。CTは従来機種が1回転で

撮影できるのは4センチ。新しい装置は1回転(0.28秒)で4倍の16センチ幅になった。頭部や心臓は1回転で撮影できる。同病院放射線科診断部長の網野雅之医師(54)は、「CT検査の課題だった被ばく線量を大幅に低減できる。息を止める時間も非常に短くなり、高齢者や小児も負担の少ない検査になった」と話す。MRIは、磁力の強さが従

来機の2倍の3テスラ。これにより、撮影時間が短縮され、



1回転で従来機の4倍、16センチ幅を撮影できるコンピュータ断層撮影装置(CT)は戸田市本町の戸田中央総合病院

解像力も増し、小さな病変も発見しやすくなった。特有の音も低減。「ドーナツ型の撮影装置の直径は、従来機よりも10センチ長い70センチ。患者さんの圧迫感がなくなった。体が動いても映像を補正する性能も向上した」と、放射線科担当技師の岩川彰さん(37)は説明した。



2016年(平成28年) 8月4日 木曜日